

○ 路地裏の一軒——江戸の街のある一角

(レッスンの為の……)

美保と半四郎(父・兄・弟)の会話。

美保、手内職の扇を一まとめにして、風呂敷に包んでいる。

美保「父上」

半四郎「うむ？」

美保「もし、おひるが遅くなるようになるようでしたら、そこに支度して置いてございますから」

半四郎「天下の珍味といえど、一人で箸の上げ下げは味気ない。遅くとも待つておる」

美保「思わず、ふツと微笑が湧いて出る)はい……それでは、お勘定を頂きましたら吉崎町に廻り干魚^{ほしうお}など」